

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立もみじ台中学校

1. 学校経営の重点

・学ぶ力の育成と心の育成	・豊かな心の育成	・健やかな身体の育成
・札幌らしい特色のある学校教育(雪・環境・読書)の推進		・心に響く生徒指導の実践
・もみじ台中学校の伝統(あいさつ・合唱)の継承・発展		・信頼される学校の創造

2. 今年度の重点

・生徒の学力向上
・生徒の自己肯定感の向上
・地域との連携・ボランティア活動の活発化
・教師の研修・働き方改革の推進と業務の見直し、めざす学校像の共有

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	知・徳・体のバランスのとれた教育課程が編成されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間授業時数の確保に努め、道徳、学活、総合の時数のバランスをとった。そのため内容定着のための反復練習の時間を取ることができた。 ○授業の始めに「本時の課題」を黒板に提示し、生徒がいま何を学習しているかが明確に分かるようにした。また、できる範囲で授業の振り返りも取り入れた。 ○来年度より全学年で「学習の記録表」の取組を実施し、家庭学習の定着を図る。 ○道徳の時間を35時間確保し、学年の教師がすべて授業をおこなった。今後は研修を深め、より良い授業の作りをめざす。 ○地域ボランティアの積極的な参加を奨励した結果、地域とのつながり実感することができた。 ○小学校との連携を図り、運動する時間を増やすことを考えて行く。 	A	A
	年度当初の計画が確実に実施されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数の適切な確保、道徳、学活、総合の時間を見通しを持って配置した。年度の終わりに調整を必要としたが、来年度は更にバランス良く実施していく。 	A	A
	教育活動全般にわたって評価を行い、次の計画に生かされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケート(保護者、生徒、教職員)、全国学習状況調査(中3)、共通指標アンケート(中2)などのデータを分析し、早期に職員全員で共有することができた。 ○来年度は教室配置の変更や休み時間の短縮から、放課後活動の十分な時間確保を計画している。 	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携を深めてほしいと思います。 ・今後も地域ボランティアに積極的な参加をしてほしいと思います。 ・現場教師の負担軽減のため、人員配置数を増やしてほしいと思います。 			
学習指導	全員参加、学び合い、言語活動の場面を設定した授業が推進されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度比べ、授業時数は適切なものとなった。教科書の内容を丁寧に伝え、小グループでの活動や意見交流の場面までもっていった教科が増えた。理科の実験や音楽の合唱活動では学び合いの場面も設定できた。言語活動については、まず基本的な言葉の理解力を深めていく取組をどの教科でも進めていく必要がある。 	A	A
	学習習慣の定着をめざした指導が行われている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任が「家庭学習表」や「テスト計画表」を使って、生徒の家庭学習の取組を把握し、指導を進めているが、なかなか家庭学習が定着していないのが現状である。来年度は全学年で「家庭学習表」を導入し、その定着を図る。 ○学習の定着度があまり高くはない実態から、繰り返し練習の時間を確保し、ドリルプリントを実施するなど、定着の精度を上げていく。 	B	B
	評価・評定について、その評価方法や到達目標を保護者へ充分伝えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の生徒への説明と保護者へのプリントでの説明、学年PTAでの説明などに努力した。今後も継続していく。 ○来年度も適切な評価・評定に努める。 	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では、数学、国語は基礎ができていないと家庭学習の定着は難しいのではないか。 ・勉強時間が多くても、勉強のやり方が分からない生徒が多いのではないか。 ・休み時間に生徒同士で勉強を教え合うと効果が出ると思う。・家庭と学校の協力・連携がとても必要。 			

生徒指導	生活上の問題について、適切に指導されている。	A	○休み時間などの廊下や教室を含め、「生徒の活動に教師がつく」取組を今後も継続する。 ○各学年の教師や係を中心に早期発見し、概ね迅速な対応ができた。今後、学年をまたがる事例があった場合、指導部を中心に情報交換と指導方法について連絡を密にしていく。 ○儀式的行事や集会での礼儀作法等が、日常の場面でも反映されるよう、さらに継続した指導に努めたい。 ○「学びの支援委員会」を定期的に開催し、不登校生徒の様子の交流と指導の方策を練った。スクールカウンセラー、相談支援パートナーの積極的な生徒への関わりにより、良好な状態を維持できた。	A	A
	生徒理解と指導に生かされる内容の研修会が開かれている。	A	○1学年でhyer-QU検査（学校生活意欲、学校生活満足度、ソーシャルスキルの3つの尺度による生徒理解のための多面調査）を実施しており、検査結果は期末懇談の際に保護者、生徒に提示した。保護者、生徒、教師それぞれにとって参考になる部分が多くあった。検査の活用について検討を加え、より効果的な方法を考えたい。 ○生徒指導研修会に外部講師を招き、SNS、インターネット活用の有効性と危険性について研修した。日常の生徒指導について、最新の情報をつかみながら、研鑽を積んでいく。	B	B
	生徒理解のため、適切な相談活動が行われている。	A	○定期的に学びの支援委員会をもち情報交流をした。また必要に応じてケース会議を開き対策を講じた。今後もスクールカウンセラー、相談支援パートナーと連携し、積極的・計画的に効果的な指導を継続していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・SNS、インターネットの危険性、当事者意識の不足について、より一層指導に努めてほしいと思います。 ・教室、玄関配置の変更から来るトラブル防止に努めてほしいと思います。				
生徒活動	役員会を中心として、局・常任委員会が生徒会活動の充実を図る活動を行っている。	A	○委員会、局会後に運営委員会をもち、取り組みの経過や委員会の様子を交流することで、情報を共有し役員会と各委員会の協力体制を作ることができた。今後さらに協力体制を強化する。	A	B
	自主性を重視した行事の企画・実践につとめている。	A	○運営委員会が中心となって、行事で全校生徒によるパフォーマンスを取り入れるなど、全校を巻き込む形を意識した取り組みの工夫ができた。いじめ撲滅のための取組を企画立案し実行した。全校生徒に協力を呼びかける有志を募って地域に向けたボランティアを実施することができた。	A	B
	文化的行事を通して豊かな生徒の育成をめざしている。	A	○学校祭や合唱コンクールでは、各学級が生徒プロジェクトチームを設け、目標を立て、自主的に熱心に取り組んでいる。今後も、普段から生徒同士、生徒と教師の対話による確かな人間関係作りを土台にして、より充実感や達成感のある行事としていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・合唱コンクール等の取組は評価できる。ただし、一部の生徒が朝練習に参加しないのは気になります。 ・生徒会と一般生徒との温度差が気になります。・楽しそうに活動をしていて、とても良いと思います。				
その他	安全な学校生活を送るため十分な対策がなされている。	A	○夏の避難訓練では火災を想定し、消防署と連携して煙道体験や消火訓練という臨場感のある訓練ができた。冬は地震を想定し、札幌市危機管理対策室編集の資料を用いて、安全に対する知識と意識の向上を図った。来年度も継続実施したい。	A	A
	校舎設備が適切に活用されるように十分に整備が行われている。	B	○老朽化している部分については、随時、札幌市学校施設課に報告を行い、改善をしていただくよう要望を行いたい。	A	B
	学校公開日を含めた授業参観が効果的に実施されている。	A	○平日の保護者対象の授業参観日、年に2回の学校公開日、土曜参観日、陸上競技大会、学校祭、合唱コンクールなどの公開を行っている。学年PTAで各行事のビデオを鑑賞した。 ○授業参観の予定表を事前に配付、玄関ホールでの行事ビデオ放映など、参加者が増える工夫もした。	A	B
学校関係者評価委員による意見	・制服、ジャージ着用の自由度を上げてほしいと思います。 ・交通安全についての指導をお願いしたい。・不審者に対する訓練を実施してほしいと思います。				